

平成29年度第1回徳山中央病院地域連絡協議会 議事概要

【日時】平成29年7月26日（水）19:00～19:50

【場所】JCHO徳山中央病院本館11階会議室

【次第】

1. 開会挨拶
2. 委員紹介
3. 議題
 - (1). 徳山中央病院の現状報告
 - (2). 訪問看護ステーションの開設について
 - (3). 認知症患者への取り組みについて
 - (4). 各委員からの要望等について
 - (5). その他
4. 閉会挨拶

【出席者】

中嶋 裕	(山口県周南健康福祉センター所長)
大西 輝政	(周南市役所福祉医療部長)
津田 廣文	(徳山医師会会長)
蔵田 聡	(徳山歯科医師会会長)
西村 正広	(徳山薬剤師会会長)
高松 育人	(周南市立新南陽市民病院事務局長)
松村 紀文	(徳山医師会病院事務局長)
北村 則和	(周南市社会福祉事業団事務局長)
有馬 俊雅	(周南市社会福祉協議会事務局長)
田中 義啓	(周南市自治会連合会会長)
前田 瞬	(徳山大学福祉情報学部講師)
那須 誉人	(JCHO徳山中央病院院長)
齋藤 満	(JCHO徳山中央病院副院長)
沼 文隆	(JCHO徳山中央病院副院長)
松浦 義則	(JCHO徳山中央病院事務部長)
小阪 マリ子	(JCHO徳山中央病院看護部長)
欠席者なし	

【議題概要】

1) 徳山中央病院の現状報告

- ・ 28年度の診療実績を26年度、27年度と比較しながら報告した。

2) 訪問看護ステーションの開設について

平成29年6月1日に訪問看護ステーション開設したこと及び活動内容についてを以下のとおり報告。

- ・ 場所：当院西館2階に設置
- ・ 訪問看護の対象：車で片道30分、周南、下松、光市の周南医療圏
- ・ 人員配置：緩和ケア認定看護師1名、看護師2名、事務員1名で構成
- ・ 6月実績：契約件数26人（医療対象18人、介護8人）
訪問件数179回（医療133回、介護46回）
- ・ 当ステーションの特色
認定看護師による相談・訪問や多職種（リハビリ・薬剤師・管理栄養士・社会福祉士等）による相談が可能。
皮膚創傷の認定看護師もいるので、褥瘡や創傷についても同行して在宅で治療することが可能で、カテーテル類の管理、緩和ケアという領域を訪問看護の中でおこなう。

<委員質問>

緩和ケアを強化していくということか？

<回答>小阪看護部長

ステーション化したことで、24時間の看護が出来、在宅での看取りに力を入れていきたい。

3) 認知症患者への取り組みについて

今年度、認知症ケアチームを立ち上げたことを報告。

<目的>

認知症疾患の治療ではなく、日常生活での支援や環境を整えることで、認知症をもつ方が、自身の能力を最大限に出来るよう、また、本来の疾患を安全に治療することを支援する。

入院される患者さんも突然の環境変化で、安静度も変化して、興奮状態となられる方が、これまでも多くみられたが、看護師としては認知症について十分な知識が持っていなかったなので、そういう方々を理解しながら看護していくことを目標とする。

<活動内容>

認知症を正しく理解し、療養環境を整えることで、認知症または急性混乱のある患者さんをケアする。

ケアチームは、精神科医と認知症認定看護師1名と社会福祉士、薬剤師、管理栄養士、作業療法士、心理療法士、事務という多職種で構成している。

認知症機能の低下は、アセスメント用紙で、看護師がアセスメントするが、介入が必要な患者さんにラウンドする。

1日に各病棟2人～5人の介入対象となる。1日全病棟で約30人に介入している。

<ラウンド方法>

ラウンド日は、週3回病棟の看護師とカンファレンスしながら、看護計画とケアの実践をして、部屋を訪問し、療養環境を整備していき、治療が効果的に進められるようにする。

アセスメントシート（日常生活自立度）を確認して、日常生活自立度が落ちている患者さんをケアしていく。

4). 各委員からの要望等について

(質問)

市民公開講座の参加人数、開催状況を教えてほしい。

(回答)

がん市民公開講座は年2～3回おこなっている。

周知については、市の広報やホームページにお知らせしているが、もっと、前もってみなさんへ連絡して盛んにしていきたい。

(質問)

認知症への介入が必要な方がどれくらいおられて、どのくらい介入するのか？

(回答)

1人に30分ぐらい週3回ぐらい介入する。

ベッドから降りたりされるので、動けるようになった患者さんを拘束するのではなく、動きやすい環境を作るように心がけている。

全病棟10棟で2～5人が対象になる。

入院されている全員ではなく、介護保険の日常生活自立度の3以上を対象としている。

問題行動があれば病棟が介入依頼を出す仕組みをとっている。

(質問)

緩和ケアを在宅に移行されて看取りをされていることはよいと思うが、死亡確認はどのようにしているのか？

(回答)

緩和ケアの医師が、24時間体制で看取りに立ち会っている。

(要望)

最近、診断が見つからない患者さんで、総合診療内科でお世話になっている。

良い科が出来たと思っているが、出来たら徳山中央病院の中に呼吸器専門の外来を作ってほしい。

(回答)

大学と協議して、出来るだけ科を開設していけるようにしたい。

(要望)

日常の患者さんを診ていると高齢者になるにつれて、口腔内が不潔になってくる。

認知症ケアチームも多職種でやってらっしゃるが、歯科衛生士が入れるとよい。

(回答)

歯科衛生士が介入するように体制を作っていきたい。

(質問)

薬剤師会で、クリーンベンチを導入して、IVHに対応していく予定なので、該当の患者さんがいれば協力したい。

(回答)

訪問看護ステーションで、点滴などIVHなどは、点滴の管理体制がまだ出来上がっていないが、若干、いらっしゃるのではその時はお願いしたい。

高カロリーの患者さんで、CVで帰られている患者さんはいない。

(質問)

紹介状を持たずに来られる方がどのぐらいいらっしゃるか？

(回答)

(質問)

心理療法士とは具体的にどのような仕事をするのか？

(回答)

患者さんの症状を聞く。時間を制限せず話を聞いて、心のケアをしていく仕事。

(要望)

地域連携室から、転院調整で来られる患者さんの情報は、患者さんに迷惑がかかる為、なるべく早く分かる範囲で教えてほしい。感染の情報が遅れてくることがある。

(回答)

出来るだけ早く情報を出すように心がける。

(質問)

ドクターヘリの搬送とは外へいくということだが、搬入より搬送が多いというのはどういうことか？

(回答)

例年搬入と搬送は同じぐらいだが、28年度は小児外科の対応で搬送することが多かった。

(質問)

自治会で防災訓練を計画しているが、防災ヘリは普段どこにあるのか？

(回答)

ドクターヘリは、基地が山口大学にあり、山口大学で管理している。

防災ヘリについては、消防が管理しているため、防災ヘリの手配についてはわからない。

(要望)

色々な取り組みをされているが、スマイルや広報以外にもホームページやSNSを活用して、情報発信してほしい。

(回答)

これまで以上に情報を発信していく。

以上